

—生保エコシステムの新たなステージ— ヘルスケア分野への展開



陰山先生の高輪アイランドクリニック (宮古島)

アイリックコーポレーション(IRR)フェロー
保険・ヘルスケアDX担当 畔柳主税

《「Dr.コトーの診療所」から「人を観る時代」を先読み@宮古島》

今回は東京のビジネス最前線から離れて、映画「Dr.コトー診療所」をヒントにスピノフ風の気軽なお話をしていく。離島の伝統野菜から再生医療の最先端研究まで及び、医療と保険の原点にも遡る。宮古島のスーパードクターとの出会いはプロセスエコノミーの観点でも感動的だ。

医療の本質を考 えさせられた!

2022年の年末に「Dr.コトー診療所」を観た。03年にTVドラマがスタートしたので、20年の集大成である。この作品は、離島医療に一人で挑戦する外科医の五島医師の物語である。島の人は専門的な治療を受けるために内地へ行く必要があるが、日々の暮らしがある中で大きな負担と

なる。そこで、コトー先生は島でいろんな人が病気の手術を行い島の人を救う。天才的な腕を持ち、犠牲的精神で挑戦する外科手術はドラマティックで、感動的である。医療の本質を考えさせられるのがその基本姿勢——「病気を診るのではなくて、人を観ること」——だ。漁師の足の治療には、命のリスクが高くなっても、足を温存する手術に挑戦する。がんの老人には、入院・副作用が伴う治療よりも在宅での緩和医療にする。

離島ならではの 生活の知恵に触 れる

現代医療では専門的な治療は進化しているが、疾病への治療は統計・確率がベースになる。現代の保険も細分化され、死亡・事故・病気などの各種リスクの統計・確率をベースに商品化される。より多くの人を効率的に救うビジネスとしては必須のことだ。しかし、リスクマネジメント的に

は、治療も保険も発生時対策だ。病気には未然防止が大切で、予防医療・健康増進が大切だが、一人ひとりの個性・環境によつて対策は異なる。都会のビジネスから切り離された離島には、治療・保険が不十分な時代からの生活の知恵があった。「Dr.コトー診療

症状・統計ベースからウェルビーイング志向へ!

所」の撮影場所は、与那国島である。私は、6年前から宮古島に通っているが、離島の生活の知恵も分かってきた。アンマ(お母さん)は、山羊

・島野菜・芋などを使つた健康的な料理を作ってきた。おばあは、体調が悪い家族がいれば、薬草を煎じて飲ませていた。

私の宮古島での縁も深い。宮古島と縁、広がる夢



モリンガおじさんのパリの番屋 (自然農園)

沖繩の風習である模合(もあい)は、相互扶助(冠婚葬祭)、親睦(飲み会)、資金調達など助け合いの精神で多様な個人のこと川満さんと、満月

ここで、宮古島にクリニックを開業して、島野菜を採取し、東大と連携して島野菜の遺伝子解析をしている。

私は早速、陰山先生に

宮古島でお会いして意気投合し、応援することに。モリンガ茶・月桃茶の川満さんと新城さんを紹介した。エクソソームのリサーチも順調で、研究結果と画期的な治療につながるのも間近だ。島のおばあの知恵が、現代社会に蘇るのは素晴らしい。日本の伝統的な農業の復活にもつながるのではと、夢は広がる。

宮古島で陰山先生と飲んでいたら、びっくり仰天の事態が発生。22年10月の本連載で紹介した「食べても太らず、免疫力がアップする食事法」の著者、ドクター石黒が陰山先生と宮古島で診療を始めること。石黒先生は、日本のヘルスコーチの草分け的存在で、フォロワーが25万人を超える人気YouTuberでもある。某大手生命保険会社でも講演している。22年11月には、影山先

生から石黒先生の歓迎会に私も呼んでいただき、念願の対面を果たせた。宮古島で2人のお医者さんが、最先端の予防医学で一人ひとりのウェルビーイングに合う治療・健康増進の新たな世界を創造している。Dr.コトーの犠牲的な献身の限界を超えてくれると期待している。2人の医者には外科手術の派手さはないが、「病気を診るのではなくて人を観る」Dr.コトーと重なって見える。

縁のある2人のドクターが診療開始

静岡県富士市生まれ・東工大卒。石油会社のIT部門から2008年より保険業界向けのITソリューション・DXの企画・営業に携わる。持ち味は企業コラボ。

【畔柳主税(あぜやなぎ・ちから)氏のプロフィール】